

## 第7回 京丹後市学校再配置検討委員会 会議録

- 1 開催日時 平成20年8月26日(火) 午後7時30分～午後9時13分
- 2 開催場所 京丹後市役所 峰山庁舎 2階 201.202.203会議室
- 3 出席者 高野委員長、大木副委員長、荒田委員、高田委員、松本委員  
小倉委員、坪倉委員、板垣委員、小松委員、増田委員、本城委員  
小牧委員、平松委員、河田委員、谷委員、野木委員、藤原委員  
西山委員、沼倉委員 19人  
(欠席者) 平林委員 1人  
(事務局) 米田教育長、水野教育次長、高橋教育理事  
粟倉教育総務課長、松井学校教育課長、山副社会教育課長  
吉田文化財保護課長、谷口総括指導主事  
教育総務課 坪倉主任、田辺主任 10人

### 4 議題

- ・ 学校再配置の検討について  
(小学校の再配置について)

### 5 公開又は非公開の別

公開

### 6 傍聴人の数

8人

### 7 要旨

《議事経緯》

#### (1) 開会

#### 〈教育次長〉

皆様、こんばんは。定刻になりましたので、只今から第7回京丹後市学校再配置検討委員会を開催させていただきます。本日特に委員の皆様から欠席の通知をいただいております。若干名遅れられるかと思いますが、只今から始めさせていただきます。

それでは最初に開会のご挨拶を、高野委員長様よろしくお願い致します。

#### 〈委員長〉

皆さん、こんばんは。本日は第7回の検討委員会を開催させていただきました所、委員

の皆様には大変お忙しい中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

委員会も今回で7回目という事で、先般は6回目で中学校を中心としたご意見を賜ったわけでございます。今回は小学校につきまして順次ご意見を賜っていきたいというふうに思っております。時間の範囲でできるだけ沢山の町について議論を重ねていきたいと思っておりますので、委員の皆様ご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。ひとつ活発なご意見を賜りまして、いい答申ができますよう、皆様方のご協力をよろしくお願ひしまして、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひします。

#### 〈教育次長〉

ありがとうございました。

それでは続きまして、米田教育長がご挨拶を申し上げます。

#### 〈教育長〉

こんばんは。第7回の検討委員会にお集まりいただき、どうもありがとうございます。前回は先程も委員長さんが言われましたけれども、中学校の再配置に関しまして非常に熱心な論議をしていただきました。本日から小学校についての予定という事になっております。皆様に大変お世話になりますが、いよいよ終盤にかかる大事な時期だという事、それから京丹後市における学校再配置問題はどんな学校の配置が子どもたちにとって一番いい配置になるのか、また本市における今後の新しい学校教育のあり方を模索することになるというような基本理念を思い出しながら十分ご意見をお聞かせいただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願ひします。

#### 〈教育次長〉

それでは、この後議事に入らせていただきます。高野委員長様にお譲りしたいと思ひますが、委員の皆様のご発言は今晚もマイクを通してのご発言という事でよろしくお願ひ致します。

#### 〈委員長〉

それではお手元の次第によりまして、進めさせていただきます。

はじめに、本日の会議録署名委員の指名をさせていただきます。名簿順位11番の本城委員さん、名簿順位14番の河田委員さんを指名致しますので、よろしくお願ひします。

本日は小学校の再配置について検討に入っていきます。次第書の順にまず峰山町からこれまでの分科会の報告を踏まえまして委員の皆様にご意見をいただきたいと思っております。どうぞ、委員の皆様ご意見ございましたらお願ひします。

### 〈委員〉

峰山町の分科会の方からは、新築で1校に合併するというような結論を出しているんですけども、これまでの話を聞きますと、新築ではなく、お金がないので現在の建物を利用してというふうなことなんですけども、教育委員会としてはこの問題についてはどういうふうなお考えなのかちょっとお尋ねしたいのですが。

### 〈教育次長〉

今ご指摘のように、当初の出発点で今高田委員さんおっしゃいましたように、既存の校舎を使用するという事で議論をスタートさせていただいております、そうした中で、峰山町分科会におきましては新築1校というはっきりとした最終報告をいただいておりますけれども、できればですね、この場で他の町域の委員さんはどのようにお考えいただいているのか、また各町から見えていただいております地域まちづくり協議会の委員さん、或いは学識経験者の委員さんはどのようにお考えいただいているのか、ここでは是非さらに議論を進めていただければというふうに思っております、教育委員会がここですぐ答えを出すというのは、なかなか答えが見つからないのが実状でして、是非多くの意見がいただければと思っております。答えになりませんが。

### 〈委員〉

前回お尋ねしました時に、現在の学校の中でも急傾斜地とか、低い場所で水に浸かりやすい学校とか、そういった学校もあるようでして、例えば峰山の場合でしたら、とりあえず峰山小学校と新山小学校の2つはできたら避けて、合併するならしなければいかんでしょうかなと思うんです。そうしますと、仮に峰山町で言いますと、一番適しておるのは吉原小学校かなというふうな感じがするんですけど、他の皆様はどういうふうに理解されるか。ただその学校で全部の学校の児童が収容できるのか、建物の大きさと人数との兼ね合いがというふうな面もありますので、ただ1校に合併するという事はちょっと難しいような気がします。

### 〈委員〉

峰山の分科会のお話でございますので、一応私どもの方としても分科会の中でもその新築問題等につきましては、当然最初の定義の中ではそれはありえないだろうという話は重々承知はさせていただいておりますという前提でのお話という事をまずもってお話をしておきたいと思っております。最終報告の中にも書かせていただいておりますけれども、当然子どもたちも減ってくる、25年には全体で746人に減ってしまう、そうした中で3校2校と

いうふうな形で他に移りお借りしてという事になるのなら、いっそのことやはりより子どもたちにより良い環境をきちっと与えようじゃないかという動きの中での新築案と、ただそれが実現できるかどうかという事を言い出したら先へ進みませんので、あくまでも子どもたちの教育環境を整える、地域みんなで支えていく、幸いにも峰山の場合はいろんな形の中で連携のできる状況があるし、五箇なんかも今言ったようにこういう切迫した状況もあるので、やはり1校に統合して、最後に書いておりますけど、より一層特色ある学校、地域に開かれた学校、安全な学校、通学のことも含めて全てにおいて特色ある学校、そういうものを作って欲しい、それも放っておいたらいつになるかわからないというような、我々分科会としては平成23年を目標とする、それぐらいの気持ちでいますよという事をやはり分科会としては訴えていきたいという気持ちでございますので、何も最初の話を逸らして、或いは無視しているわけではないという事を申し上げさせていただきます。

**〈委員長〉**

わかりました。他にございますか。

念のために教育委員会に聞きますが、現在1校に束ねるとしたら、峰山の小学校で入れるんですか。

**〈教育次長〉**

現在の既存の校舎、学校ではございません。収容不可能です。

**〈委員長〉**

そうですか。児童数の推移からすると何年先だと入れますかお示し下さい。皆さん共通の認識をしていただかないと、意見が合致しないと思いますから。

**〈教育次長〉**

データが26年度ぐらいまでしかありませんので、今は即答することは難しいです。

**〈委員長〉**

わかりました。今の、峰山の新築して1校にというのはダイレクトにという意味ではなくて、建て替え計画の中でこの中身に新築ができる環境が整うのと合わせて、子どもさんの数がうまく合えば一番いいのかなと思います。

**〈委員〉**

希望としては非常に強いですけどね。あくまでその強さはできればという事ではなくて、絶対欲しいんだと、そういう環境を整えてあげたいという気持ちの方が強い。そして、そのことによって前回、増田委員さんもお話しされていたんですが、地域のねじれ現象も解

消できるし、安全に通学もできるし、今でも危ない所があるから反対にそうやって解消ができていくんじゃないかなという、積極的な形だというふうに、できればというふうには考えてはおりません。僕も、できればで通してしまっていると、また地域の分科会の皆さんは何をしてたんだという話になってもいけませんので。

**〈委員長〉**

分科会としての意見はわかりました。他にございませんか。

**〈委員〉**

今は峰山に限定している話ですか。

**〈委員長〉**

はい峰山です。順番に峰山町からいきますので。

**〈委員〉**

そうですね。ちょっと認識が変わったので、1つは、私は複式学級についてお聞きしたい。今京丹後市内では4校あるというように市教委からは伺っておるわけですし、だいたいその基準がどうなっているのかという事をお聞きしたい。私が知っている限りではだいたい1、2年生が8人程度になると複式だと、その他の学年は16人程度で計は全体学校規模として40人ぐらいの所が複式学級のラインだというように伺っているわけです。統廃合を考える際に1つの非常に大きな問題になってくると思うし、現実としてはやはり色々なメリットデメリットがあると思うんですけども、私はやはり地域づくりの問題もあるかと思うんですけど、複式学級というのは解消していく方向でこの統合も考えていくべきだというように考えているわけです。そういう事になりますと、現実的な問題としては今既に出生数がわかっているわけですから、何年後にはこのくらいにはなってしまうという事は少し出てきているわけですね。そうすると、そういった所を踏まえながらやっぱり最終的にはそういうものを解消していく1つの統合であって欲しい。それからもう1つ、今峰山の方から出ている、いわゆる京丹後市内にある峰山町なら峰山町の特色を発揮できるような学校への改正の1校案であって欲しいというわけで、その辺の兼ね合わせが非常に難しい問題になってくるし、そこはしっかり考えていかなければならないというように考えている次第です。先程申しましたようなその辺の希望等はそういうふうに理解してよろしいでしょうか、私が申し上げた通り。

**〈教育理事〉**

教育理事です。学級編成につきましては全国の基準と、それを上回らない所で京都府の

基準というのがありまして、小学校の場合の京都府の基準といたしますのが、1学級の人数としまして40名という、40名だと1学級、41名になると2学級、それから下の部分ですが12名で1学級、それ以下だと複式の編成をしないといけないと、そういう府の基準にはなっております。ただ色々と難しい所がありまして、例えば小学校の場合でありますと、1年生を含む場合は合計人数が5名以上ありますと1年生、2年生の複式学級はしないとか、それから12名以下でありまして、例えば10名が2年生と4年生の場合とはびクラスになりますね、そういう場合はしないと。それから全校児童数が25名以上の学校については複式の学級は1つにする、全校児童数が24名以下の学校につきましては最大2つの複式学級にするという事で、色々と複雑な要素が絡んでおりまして、基本的には隣同士の2学年合計人数が12名以下であると複式を行うという基準になっております。以上です。

#### 〈委員長〉

他にございませんか。まちづくりの委員さんからの報告が多かったんですが、分科会の方から他町からの何かご意見ございませんか。

#### 〈委員〉

前々回も少し話させてもらったと思うんですけども、当初から新築問題、あと地域における小学校中学校をどのように考えていくかという事も前教育長も述べられていたと思うんです。なくなった場合ですね、じゃあ小学校を地域でどのように利用していくんだと、残していくという事は経費がかかるという事で、じゃあどうするんだというような話にもなりかねませんし、今の時代つぶすのも金がかかるという時代が来ていますので、やはり老朽化したものに対してはつぶしていかないとだめだという所もあるんでしょうけども、そこら辺の議論も含めてやはりしていかないと、住民の皆様にも納得していただければですね、この協議議論が成り立たないのじゃないかなというのはすごく感じる所で、ただ新しい校舎を建てればいいのか、いつかはその校舎も古くなるわけで、ところが今の行政を見ていると、やはり金がないからどうしようかという問題になってくる訳ですね、既存の体育施設でさえ金なくて修理もできない状況の中です、現実本当に新校舎が建つのかなという所もあるので、本当に現実を踏まえながらですね、やはりより良い地域社会における教育行政のあり方というのを私たちも夢を追うのも確かに必要だと思いますけども、やはり住民の皆様とともにですね、教育のあり方というのも考えながら再配置の検討をなされるべきではないかというふうには常々思っております。以上です。

### 〈委員長〉

はい。他にはありませんか。この新築をしてという事について、他にご意見がありませんか。基本としては、今のように既存施設で子どもさんたちに良い環境をとという事で、新築というのは当然より良い環境が作れるという所で、当然そういう意見が出てもという事で、それはそれで結構でございます。他にごいませんか。

### 〈委員〉

弥栄町の坪倉です。これは今峰山町限定という事ですが、どこの町でも言える事だと思うんですが、教育委員会の方は、それじゃあ建て替えの方は何年経ったらやるんですか。全部今既存の校舎は新しいのは少ないと思うんですよ。30年経過した小学校というのが相当数あると思うんですよ。それを今も出ておりますように、1校2校にしていくという場合、どれだけの年数をかけてそういう問題を解決されるのか、これ順番制で各町順番になるのか、年数が10年先いったら、まあ弥栄の場合校舎が40年経過しているんですよ。それを既存の校舎を使ってという事になると、とてもではないがその増改築に非常にお金がかかる。ですから、やはりこれは峰山にもありましたように新築というのも視野に入れた検討、そしてそれじゃあ京丹後市6町ある小学校を6校にすぐにしていくんだと、そうならば何年頃から始まって何年には終了させたいというのをある程度示していただかないと、この話は先に行かないと思うんです。耐震性の問題もありますし、色々。非常に今各町が1校でよろしい、分科会を尊重していきたいと思うんですけども、ところがそれを1校にして欲しいと、弥栄なんかでも峰山町と同じように1校にするんだけども新築が望ましい。そうしないと既に今30年経過しているという中で、非常にそのあたりが、今も峰山の方からも出ておりましたように、環境面だとか安全面だとか色々考えますと、そういうあたりも最初にそれじゃあ何年頃から何年間かかってどういう方向で再配置をしていくんだと、いう事が僕はまず重要ではなかろうかというふうに感じております。今は峰山町限定という事を言われましたが、総体的に考えるとそういう事が言えるであろうというふうに感じております。

### 〈委員長〉

はい、ありがとうございました。この建て替えをしてというお話は、皆さん見解が違うんだろうと思いますが、可能な限り京丹後市としてはそれなりに学校は学校で、要するに改築をどんなペースでやっていくんだというのは一定持っているんだろうと思います。財政状況が変わりますのでローリングしながらでしょうけど。だから可能な限り改築と合わ

せるような形で統廃合を多少前倒しをする、或いは後倒しをするというような形ででも、多少そういう所はお願いをしていかなければならない範囲だろうと思ってますので、学校の新築をしないと統廃合の議論ができないという事はないと思いますので、あくまでも基本は既存施設でという事に尽きるであろうと思いますので、それを踏まえたご意見でいただきたいと思います。

**〈委員〉**

まあ、そのことは最初から既存という事なんですが、これがそれじゃあ何年かかってそういったことができるのかという事を言っているんですよ。今子どもたちを安心して環境良くという言葉が出ておりますけども、今の状態で窮屈な既存の校舎へ突っ込んで、それで安心して環境が良くてという事には僕はつながらないと思うんです。だから、こういう問題も出てくるんだと思います。これは各町一緒だと思います。

**〈委員〉**

久美浜町です。基本的な所みたいなんですけど、私は分科会で何回も確認したんですけども、その財政状況にしてもどういった計画を持ってされるという事があってこの話があるかという事も、分科会は何も知らされてないので、無いのに例えば懐状況がどれだけの懐状況だから考えて欲しいという事じゃなくて、そういう基本的な考え方はあるけども、自由な考え方でいって欲しいという事で意見をまとめさせてもらったり、聞かせていただいたという事があって、例えば最初から既存の施設を前提だというふうになったら実際今の経済状態、市の財政状態がどうなのかという事まで聞かせていただいて、それなら仕方がないとか、そういう意見の上で成り立ってきたり、今の財政状況だったらこういうサイクルでしか建て替えができない状態になっていますという事を聞かせていただいた上で意見を言うという事なら言い易いんですけど、それはないと。だからどうしたらいいか自由な意見を言って欲しいと、まとめないといけないという事もないという事なので久美浜はいろんな意見が出ましたし、合併した方が良いという意見が多かったですけども、最後までやっぱり反対される方もおられたと思います。そこをこの場で、お金がないんだろうからとやってしまうのは簡単ですけども、分科会でした議論、意見をいただいた皆様にそれで納得していただけるかというのが疑問で、それならば最初からこの方向だけは必ず決まっているんですという事を示していただいた上で、意見をいただく方がやりやすかったなというふうに思います。以上です。

**〈委員長〉**

他にございませんか。ではこの程度とさせていただきます、大宮町に入らせていただくという事でいかがでしょうか。よろしいですか。

では大宮町へ入らせていただきますのでご意見をお願いします。本城さん何か言っておかなければならないことがあるようでしたらどうぞ。

#### 〈委員〉

皆さんこんばんは、大宮町の本城です。特に言うておかなければならないことと言われると何を言っているのかわからない状況になってしまうのですが、どうしても分科会で出た話の繰り返しになってしまうんですね。特に大宮町の場合は前回も報告させていただきましたけれども、既に他町と違って昭和52年頃に今の大宮中学校1つ、それから小学校は第一、第二、第三の3つになっているという状況でありまして、それで今20年度なんですけど、これから5年後の先を見ましても、いただいている資料を見ますと子どもの数も他町と違って50名弱ぐらいしか減らないという事で、そうめちゃくちゃな大変わりはしないという事がありまして、できることなら現状のままで良いというのが大宮町としては一番強かったんです。それは子どもの数のこともありますが、やっぱり地域との連携と言いますか地域ぐるみで子どもを育てるといような面も含めましてそういった声が大きかったというのも現状でした。しかし、どうしても今ある既存の建物の中で再配置をという事になると第一小は大きいですし、耐震性の方の工事も済ませているという状況の中でこれは触りようがないなという状況の中でやるとするならば、第二と第三をくっつけようかというような状況で今まで進んでいるという事があります。先程、何年後に建て替えなければならないのかという話になりますと、やはり大宮町においても同じような13年後、或いは19年後というような状況にあるなというふうに思います。まとまっていますが、そういうような経過で今まで来ているという状況報告になりますけども以上です。

#### 〈委員長〉

まちづくり協議会の委員さんご意見いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

#### 〈委員〉

教育委員会に聞きますけど、必ず合併して1校にしなければならないのですか。

#### 〈教育次長〉

そのようなふうには考えておりません。

#### 〈委員〉

今までから段階的に考えていくという言葉がよく出てきておりましたけど、ちょっと眺

めてみますと6つの地域で段階的というふうなことで捉えておる所が今の宮地区とか、網野地区とか、それから丹後地区ですか、そういうふうな所が一応段階的なものの考え方がやや反映されているのかなあと思ったりしますし、先程から出ております峰山、弥栄もそうですが、非常にスピードを上げて早く新しい校舎を作って云々という事でおられるようですし、色々分科会でのまとめり方が地域によってかなり大きく違うなあという事を感じております。前の教育長さんの話ではいろんな意見を出せばいいんだというような事だったので、これでよろしいかと思いますが、流れとしては色々こういうふうな大きく分けて2つの流れがあるのかなというふうに捉えております。

#### 〈委員〉

どっちにしても、統合という格好でするにしても新しく1箇所にとめるにしても、足というのが一番問題だと思います。だからこの検討委員会の中でそういう結論を出し、その後で教育委員会の方で指針と言いますか具体的な案を出されるという事ですが、お金がないので足はもうできませんという事だったら我々が論議して1校にするべきだという意見もちらになる訳ですね。だから1校にしようというふうに意見が出てなるほどそうだなというふうに思っているんですが、財政的な面で足の確保がどうしてもできなくて1校案というのはできませんから、段階的に2校にしといて1校にするというふうなそういう案が出るかもわかりません。その足の問題だけは是非、一番大きな問題として統合のこの結論が出たものの中に入れて欲しいと思います。

#### 〈委員長〉

この前も通学バスについては現在既存のスクールバスがあるんですけども、もう一度言ってもらった方がいいのかな。

#### 〈教育次長〉

当然再配置の結果ですね、通学距離が一定の距離以上になるような地域がありましたらそういったスクールバスという交通機関による登下校の手段を考えることは当然やっています。

#### 〈副委員長〉

本当に難しい社会になってきたというか、大宮が合併した時ははっきり言ってほとんど木造校舎でしてね、今みたいな議論とはまた別の議論だったわけですね。今ずっと聞いておりましたら、1つだけですね僕も自分でそういう目にあって感じたことで、一番最初に思ったのは子どもたちが本当にやってくれるのだろうかという不安の方が先に正直にきま

した。私は常吉という地域なんですけど、常吉のバス停の車の来る所まで2.4キロあるんです。その奥の人たちが全く今と同じような議論をしておられたのを覚えています。しかしながら、先程通学のバスの関係が出ましたけれども、やはりこれはきちっとしてくれました、当時の町の方が。だから今1、2、3年はバス、高学年は歩いてという事で常吉は第二小学校へ行ったんですけども、そういう形で進んでいるという事なんです。しかしながら先程も言ったように当時の、まさか昭和52年の時にですね、子どもがこれだけ減るとは思っていなかったんですよ、正直なこと言って。増えると思っていたのが結果的には減ってしまったという事が現実にあるという事を皆さん頭の中にとりあえず入れておいて欲しいんですよ。うちも当時合併する前は94、5名いたと思うんですが今28名なんです。本当に先程その出生率は増えるだけで、誰も減るなんて思っていなかった、ここが大きなポイントでしてね、現実うちも3集落、4集落で1校になった、その時の思いというのは今の皆さんと一緒にしたいと思います。しかしながら、先程久美浜の会長さんが言われたように、やっぱり言うべきことは言うと、それをきちっとしていかないと子どもたちに対して、地域に対しても言葉が悪いんですけど説明がつかないという事になりますのでそれだけはきちっと議論しておいた方がいいと私は思います。

**〈委員長〉**

他にございませんか。

**〈副委員長〉**

子どもを増やす施策をしないと仕方がないなあ。

**〈委員〉**

どこの旧町もそうでしょうけど、小学校が1つになるという事はですね、地域は大きくなって先生方も今まででしたら弥栄町なら弥栄町の方が多かったんですが、今はもう宮津の方からも来られていますし、本当にこの人は地域の人なのかなという事がわからないと思うんですよ。その点でやはり不審者が入りやすい、そういう点でも地域の人がしっかり見守る体制が必要じゃないかなと思っております。今ずっと出ていました登下校に関してもスクールバスはいいんですけど、歩いて通うにしても通学路の確保、あとそれをどうやって地域の人が見守っていくか、そういう事がすごく大事ではないかと思っております。テレビなんかでもよく事件も起きていますし、決してそれは都会の方だけの出来事ではなく、身近に我々の町にも起こりうることだと思っておりますし、その辺をどう監視体制を置くかというか、地域の人に理解していただいて守っていただけるかという事がこの再配

置の問題でもあると思います。以上です。

**〈委員長〉**

はい、ありがとうございました。広域になりますので、なおその点は大事になってくるだろうと思います。

**〈副委員長〉**

1つだけ、ボランティア団体とかいろんな団体の方々が今、以前いろんな問題があった時に地域で例えば老人会だとかいろんな団体の人たちが順番を組んできちっと登下校で見守り隊をつくって、殆どの学校である程度はできていると思います。しかしながら、ボランティア団体ですので順番が回ってきても出ておられない人があるそうですけども、やはりその辺の所は、ましてや全員でそういうふうな組織を作っていくと、そしてやはり全員で守っていくという事がこれから大事になってきますので、例えばジョギングをする人たちに腕章をつけてジョギングをしていただくとか、ちょっとしたことで、自由な方が歩いていただけるならば3時から5時くらいに歩いて下さいよと、こういう提案も僕は地域でできると思います。学校どうのこうのという事も先程ちょっと地域のことだとか通学の足のことだとか色々と議論がありましたけど、総合的にやはり地域も何をすべきかという事はある程度考えておいた方がいいと思いますし、私たちの常吉の地域はほがらか会といって老人会の皆さんがきちっと組んで、必ず帽子をかぶって登下校に小学校低学年、高学年と全部行ってくれています。老人会で杖つかなければならないお婆さんに警護してもらわねはいかないので、ある程度健康で歩いて大きな声が出せるような人たちが参加してくてくれますので、こういう取り組みというのもこの機会に市内全域で取り組んでいこうというのが僕は大事なことだと思いますので、その点も1つよろしくお願ひしたいと思ひます。

**〈委員長〉**

はい、ありがとうございました。はいどうぞ。

**〈委員〉**

間人の方もですね、現在の老人会とかいろんな各団体の方が中心になりまして、特に登下校の時は必ずその時間の10分とか20分前には皆さん出てこられて、帽子とジャンパーでみんな子どもたちを見守っていこうではないかという事で、40人とか結構大勢の人が見守っています。確かにそういう事をする事によって地区とのつながりというのがすごく出てきていますし、この子はどうした今日は元気がないとか、先生どうですかなど

というようにいろんなこともしゃべれるので、こういう事は本当に各地区の学校は積極的にしていったらいいなと思います。以上です。

#### 〈委員長〉

ありがとうございました。大宮についてごさいませんか。それでは次に網野の方へ入らせていただいでよろしいでしょうか。

では次に網野に入らせていただきます。平松委員さん何か、もう一度はっきりしておかなければならないことなどありましたら、ちょっと時間が経っていますので。

#### 〈委員〉

網野の方もまとめの資料を出ささせていただいた通り、気持ちとしては現状の小学校は維持する、地域の方のお年寄りの方もやっぱり小学校があって子どもが生き生きしているから大丈夫という声が重々上がっておりました。ですけど、一概に規模というのを人数推移で決めるのかどうか、それと地域の大きさですね、その分で区切っていくのかというのも議論の中に確かに上がっていましたがけれども、やっぱり教育を受ける環境的なもの、こう人数の母体がある中でしていく方がいいんじゃないか、そういう事も考えていかなければならないというのが、網野の場合その段階を追ってという、この段階の中には人数背景もあるんですけど、既存の校舎の中で一体何人の児童数が収容できるのかという事で、以前に資料をもらった中で、どこの町も全部入っていますけど、資料3の2という所で、昭和56年ぐらいの児童数が入っているんですね、これを一応参考にして正直言って私の方も無理やり段階を追うとどうなるという事を基本に意見を出してもらったような状態です。その中で見ていくと網野の北と南については、元々網野小学校は1、200人からおった学校ですけども、それを2つに分ける所から始まっていくという事で、1校の収容児童数が概ね600から650はいけるだろうというアバウトな視点から入っていきまして、25年ぐらいまでの資料がある中で、網野町の中では750人ぐらいになるよと、これは1校にするのは無理だという背景なんです。北と南、ここらが大きい所でもありまた校舎的にも俗に四半世紀、25年程経っているわけなんですけど、校舎的にはまだ頑張ってもらわなければならないという所から意見をつめていって、橋は地域的に離れているので網野の中からいこうかという所で先程冒頭にも複式学級という事が出ておりましたけれども、そういう事も踏まえて網野の方では三津小学校がもう22、3年目の前ですね、1学級だけではなくて1学年だけではなくて、複数になってしまう。郷でも23年ぐらいに複式学級ができてくる。北と南の所へまずは、少ない所から少しでも多くの人数の所で勉強でき

る状況を作っていく方が良いのではないかなという事で、段階を追わしたわけです。ですが、島津については、人数的には児童数があるという事もありますので、ここについては校舎の老朽化が非常に進んでいて耐震の関係でも優先順位が1の所へ場所をとっております格好ですけれども、児童数と教育関係をここから見ていっても、この推移だとまだ残しておいて、もう少し先5年後を見ると人数的なものもまた見えるのかなという所なんですけれども、推移的に極端に落ちてきませんので、その辺は他の地域等見合わせながらしていけないといけないという所の段階を踏みましたので、網野の北と南ですと、他の教室を使っている分からしても収容としては450から500までは何とかいくんじゃないかという見解でまとめの資料を作らせていただきました。それ以上の固まりを持とうとすると必然的に新築と、もうこれは致し方ないという意見も最初の方に出たんですけれども、段階を追って、今言われるように市の予算の関係もあるでしょうし、他の町の所でも網野の所よりも早く校舎の補修をするなり、そういう所を補強しなくてはならない所もありますし、その辺は残して欲しいという気持ちの中でどこまで残れるのか、固めるのならどういうふうに固められるのか、固まらなければならないのかという事を常々考えておりましたので、分科会の回数も非常に多くなるというのが網野の実態ですので、平成25年に750人が校舎に入らないとすると、早く手を打って欲しいという実感があります。それが網野の最終的な所です。残して欲しいけれども、人数が減ってくることを正直に受け止めて考えるなら、どう考えていかななくてはならないかという事で網野は検討してもらってきました。56、7年位の頃の人数をみると、入れる要素はあっても校舎が老朽化しているのでそういう校舎の所を優先的に補強できる所は補強していく格好で、地域で今意見の出たすぐ自分の所を無くさないでくれという声を反映していく上でも、こういう段階で進めていく方がいいんじゃないかなというのが、網野の方のまとめりでした。繰り返し、アピールします。

**〈委員長〉**

ありがとうございました。網野町につきまして、ご意見ございましたら。

**〈副委員長〉**

南と北を言われましたね。南は何人いるんですか。

**〈委員〉**

南は、現状は今250人位いますね。北小が、350から360人いたのが、とうとう今年300人を切って、299とか298とかそういう数字になっています。その後は

220から230位までになるかなと。北と南が、先程話がありましたが、同じ人数が減るので、これなら片方1校で北と南ではなくて、網野に1つできるのではないかという事にもなりかねないですけれども、そうすると周りの方の減り具合もまたきちっとして、校舎的にはまだ25年何とか持っていることがありますので、端から寄っていく学校の場所としてはいいのではないかなというあたりを思っております。

〈副委員長〉

次長、今丹後で一番大きいマンモス小学校はどこですか。

〈教育次長〉

大宮第一小学校で、542名です。

〈委員〉

網野のまちづくり協議会の松本と言いますけれども、今分科会の報告の中でもありましたように、橘地区というのは平成25年になると130人位児童がいるわけです。それだけの児童をどこかへ移動させるというのは考えられないという事で、ここは存続と言いましょるか1校として橘地区は考えていくというのは妥当な線だというふうに私は思います。あと、先程ありましたように、旧網野町、橘を除いた学校をどうするかという事が取り上げられると思いますけれども、今報告があったように、全校1校にするには今の段階では無理があるというように思います。そうすると、あと2校なり3校という事になって、分科会に出ている案というのは、まちづくり協議会で議論はしておりませんが、やむを得ないかなあというような考え方を私自身は持っておる次第です。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

〈委員〉

付け加えますと、先程ずっと複式学級の問題等ありましたけれども、段階的にそのような状態になった時点で、例えば郷なら郷は網野南小に行くとかというような感じでの統廃合というのが一番考えやすいのではないかなというふうに考えております。

〈委員長〉

6町の座長さんにお聞きするのですが、1クラス何人以下だと統廃合をすべきだというような意見が出たのか、特に議論をした過程があるのなら教えていただけませんか。国では18人とか言っていますが、それが正しいのかどうか別として。

〈委員〉

峰山ですけれども、学校の適正規模という事の中で、最終報告にも書いてますけれども、大きい学校、小さい学校それぞれにいいことがあるけれども、クラス替えが可能な、同一学年は複数の学級が欲しいし、1学級の人数は先生が覚えられる人数が一番いいと。ですから30人程度が理想であって、20人では少なすぎる、せめてドッジボール、ソフトボールができるような状況でのクラス編成が望ましいのではないかというのが皆さんの一致した見解という事であげました。

〈委員〉

今30名という人数が出ましたが、丹後町は30名全然ないです。15名とかそんな状態ですので、全然問題にならない。

〈委員〉

峰山も五箇なんか非常に少なかったの、そういう事も踏まえてやはり広域で連携したい、そういうまとまり方です。大きいから小さくしようというわけではなくて、そういう状況もやはり改善したいなという意味合いがあります。

〈委員長〉

人口の多い少ないによってそれぞれ思いが違うのだろうと思いますけれども。

〈委員〉

網野は、先ほどからの複式学級という所を特に人数推移からしても、三津と郷の所が引っ掛かってくることがありますので、そこが歴然として現在あるんだし、またすぐ出てくるという事で、その辺の所を見ていくと全校の生徒が30人を切ってしまうというあたりの、そういう人数背景を網野の中では若干報告書にも少し出ていますけれども、そういう人数背景の所は検討させていただいています。

〈委員長〉

ありがとうございました。はい、どうぞ。

〈委員〉

大宮も同じような事でした。3つ小学校がある内、第三小学校というのが42名位なんです。5年先を見ても人数的にはそう変わりはないんです、大きく減るという事はないんですが、話の中でやっぱり峰山町さんも言っておられたんですけれども、遊ぶにしても、ソフトボールをすとか球技をするにしても人数が少なすぎてできないとか。ちょっと寂しいなと思いましたが昨年でしたか、修学旅行に6年生は3名で行ったという報告があり、それはちょっと寂しいなというのも事実です。そういう中で実施されているという事

もありまして、そうであっても地域の人たちは小学校が地元にあったら子どもの声が通学する時には聞こえるから無くさないで欲しい。置いて欲しい。というご意見もあったわけですが、子どものことを考えると、やっぱり大勢の子どもの中で揉まれる、そういう中でたくましく育てて欲しいという、親の複雑な気持ちの中で、どうしても再配置を考えるならば、第二と第三と、そうしますと5年先に約130名程度になるわけです、今は150名位なのですが。そういう事も踏まえて、二と三をとという所にまとまってきた経緯があります。

#### 〈委員長〉

ありがとうございました。荒田さん、どうですか。

#### 〈委員〉

そうですね。問題は色々あるかなと思って聞かせてもらっているのですが、先ほどの次長さんの話を聞かせてもらっていると、色んなことを言えという事だから、子どもにとっては新しい学校を建てる方がいいと言ってやっぱり意見を出すことが大事なので、ここから子どものためには、耐震性の問題、教育の問題、地域の活性化の問題にとってやっぱり新しい学校を建てなくてはならないと、どんどん言ったらいいのではないかなと思います。先程の次長さんのお話を聞かせてもらった感想です。現実問題そうではないかなと思いますね。やっぱり耐震問題を考えていくと、既存の施設にいろんな不具合がある中でいっぺんにはいかないでしょうし、先程も言われたように段階的に再配置を考えていくのだったら、ここからいったらここが建てていけるといった模索をしていくのがお金のいる事なので大事なことではあるかなと思いますけれども。子どもにとってそういう事が必要だという声を出していくことが、委員の中から出していくことが必要ではないかと思います。耐震性の問題の中で、建物を新しくする時に、この間の東北の地震の中でも日本建築がかなり地震に強かった、揺れで壊れなかったというデータがある中で、新築する時に鉄筋というよりも日本建築のいい所を生かして是非建てていただきたいというふうにも思いました。そして大木さんと横で少し話していたのですが、子どもが減るという議論で、私たち女性も働く方が楽で子育てをする方が大変だという思いが切実にするんです。やっぱり子育てをすることは大事だと、もう少し文化を育んでもらいたいなあというふうに切実に思います。減る、減るでは前向きには考えられません。子育ては大変、結果がすぐ出てきませんので。物を売ったり買ったりしてお金が儲かったという事はすぐに結果が出るのですが、子育ては20年という長い目で見て、自分は失敗したかなという結果が出てき

ますのでなかなか大変ですけれども、やっぱりもう少し子どもを産み育てる文化も育てていただけたらなあと思います。なかなか一言で言うには難しい問題ではありますが、もう少し子どもを産み育てる環境とかそういうのを育てていくといいなというふうにも感じます。それと学校へのスクールバスの件で、この間少し大宮のまちづくりの中に出てたんですけれども、私たちが団塊の世代で1クラス60人の中で育ってきて、我々が引退の時期に入ってきたんですけれども、車もだんだん運転できなくなるのではないかという話が出ていました。今200円バスが走っている中で、利用するんだったら200円でなくともう少しお金が高くていいのではないかという話が出ていて、都会だったら電車を利用して通学するように、スクールバスに上手く利用できないかなという思いもしました。先程大木さんが言われたように、見守り隊を作ることによって地域のまちづくりという事にも、大いに効果があるのではないかなというふうに聞かせていただいていたんです。とりとめのない1時間の感想かなという所ですが、私の思いです。

#### 〈委員長〉

はい、ありがとうございます。

次に丹後町に入らせていただきます。

#### 〈委員〉

丹後町では最終報告案を出しておりますけれども、その中で重複することもあると思いますけれども、丹後町では竹野小学校という所が本当に人数的にも少なくて早く統合して欲しいと、最初の分科会の時から竹野小学校は早急にどこかの学校について合併させて下さいというような答申をいただきまして、最終報告案でも皆さんの意見は変わりませんので、とにかく複式の学級がありまして現在も5年生に1名おられるのですけれども、やはり1名では何もできませんので何とか間人とか豊栄に合併させて下さいという切実なる願いがございました。他の学校につきましても丹後町では間人小学校が平成15年にできていまして、一番学校の中では新しいので耐震性から何から一番いいと思うのですけれども、他の学校につきましても、どうですか丹後町の間人に合併してはいかがでしょうかというお話を出したのですけれども、皆さんそれぞれ地区が寂れてくるとか地区を守りたいというふうな意見が多数あったように思います。その結果、竹野地区は間人とか豊栄について合併したらいいのではないかと、他の学校は現状のままで推移しましょうという所が最終報告案でした。人数的に見ましても、間人の場合は、5年後は95名とかになっておりまして、豊栄67名、宇川が89名、宇川の地区に対してはあまり変動なくほとんど減

っていないというふうに思われます。それから足の問題でありますけれども、スクールバスとか宇川の方からもし間人の方に来るにしても、袖志の方からではすごく遠いというふうな意見もありましたし、現状のままでいけるのだったらそのままでもいいという意見が多数でした。だいたい以上の報告でございます。

**〈委員長〉**

ありがとうございました。どなたでも、ご意見ございませんか。

**〈委員〉**

隣の方でよく似た立地条件ですので、うちの方も橘がぼつんと離れていて、丹後町さんも宇川がぼつんと離れていて、あと見ると大きな峠もなく何とかつながっているのかなど。ただ、豊栄小学校が、途中で中学校がある関係か遠い感じがすると思います。竹野小学校は確かに少ないので早いこと統合される方がいいでしょうし、できたら、網野で検討した中でいけば間人小学校も規模的に350から360人がスタートなんですよ。平成25年位になると丹後町は270人位に推移し、丹後町全部この中に入れるわけなんですよ。宇川が入らなくても180ぐらいだったら、豊栄と間人と竹野と合併するような格好になるので、すぐには2校の案だと思うのですが、豊栄地区の人数推移がどのように流れていくのかなというのがあります。割とこの地域は他の所から入ってこられる地域じゃないかなと感じますが、それはないのですか。人数の減り具合をみていると間人がずっと減ってきて、豊栄と宇川については微妙な人数で上がったり下がったりして変動がないなと思っで見させてもらっているんです。だからまとめるのも大変だったでしょうし、まとまらないというのも見れるので、網野と同じような格好で、峠の向こうとこっちとで分けて検討をある程度の固まりで考える状態を、すぐではなくて人数推移の中でという事が網野の中でも出ましたけれども、通学の距離的なものも出てきますので、そういう事も踏まえながら、更に出していただく方がいいと思います。以上です。

**〈委員長〉**

ありがとうございました。

**〈委員〉**

分科会では、本当に座長が言われたように、竹野地区に関しては是非統合を進めて下さいというお願いがありました。何回も分科会を繰り返すごとに産業の問題も多々あって、丹後町は住む場所ではないのではないかな、そんな話も出ました。やっぱり若い人たちと話していると、宇川にしても間人にしても豊栄にしても、みんな峰山の方に向っているん

ですね。峰山、大宮に住む所を求めてしまうんです。そういう時代が来ていて、本当にじゃあ京丹後市内の人口が増えているかという増えていなくて、ただ流入しているだけで、旧町の街場の方に向かっているだけで何ら増えていない。住む場所ではないのかなというような、本当に地域格差が出てしまっているという話もあって、なんとかその産業革命をしなければこれは増やせないなという話も出たりして、この話をしていると暗い話になるなという話もしていました。旧町の場合はやはり定住の部分の、例えばアパートを作ったり、住宅を作ったりしてやはり豊栄もすごく増えた時期もあって、ところがそういう頃もあったけど徐々に若者たちは峰山方向に向かっているのは間違いなくて、3年前ぐらいに丹後町で33名しか産まれていないんですね。現実こんな町なので、へたすると本当にきついという話しかなくて、この話をしていると暗いなという話ばかりになってしまうのが現実で、段階的に進めるべき時が来るのではないかなというのが町の話であります。

#### 〈副委員長〉

すみません、付け加えます。これはこの場所で議論する問題なのか、確かにこの学校にも大変な問題もあると思いますが、都市計画だとかいろんな視野を入れて考えていかなければならない部分もあると思います。まさか昭和52、3年で大宮バイパスみたいなあんなものができるとは誰も考えていなかったんですよ。その時に住宅問題にしても何にしてもそうなんです、だから今日この委員会は大事だと思うんですが、別の角度から議員さんだとかそういう所で都市計画等をきちっと作るという事も、学校の設置についても僕はこれから大きな議論があると思うんですよ。さっき丹後町は住めないと言われましたが、そんなこと言って大宮町ばかりに来てもらっても、こっちもまた大変なことになりますので、その辺の苦勞ですね。さっき第一小学校がマンモス校だという話がありましたが500何人いるんですよ。まさか誰も考えていませんでした。そしたら道の真ん中にバイパスができて本当に通学がどうのこうという議論をせんなんという事になってしまう。当時は田んぼの中なのでそんなことしなくて良かったんですよ。しかし、本当にそういう事を、この議論の中で都市計画だとか地域づくりだとか頭に入れて、さっき野木委員も言いましたがそういう事も含めた議論をしていかないと、ただこうだという議論だけではなくもっとこう先を見据えた議論というのが僕は大事ではないかなと思います。ただし丹後町が住めないのではなく、高校や中学校が建っているあの辺は水がつくかもわかりませんがまだあるわけですので、ただどういうまちづくり、都市計画をしていくのかという事も議論の中でやって欲しいなと、私はそう思います。

〈委員〉

ちょっと付け加えて話したいと思うんですけど、間人地区でも今の児童数は激減してしまっていて、僕たちが住んでいる地区でも子どもがうちの町内に誰もいないと、小学生がいないという事で、どこかの町ではないですけど、限界集落という言葉がありますが本当に我々が今いる所が限界集落で65歳以上がほとんどで、間人の中でも2人に1人は65歳以上に僕が住んでいる所はなっているんです。砂方地区に行けば子どもの数は20名とか登校するんですけど、他の地区にはぼろぼろとしかいないというのが実状なんです。だから本当にこの統合という事をする、保育園の場合でも間人と豊栄と竹野が一緒になって新しい保育園ができるんですけど、それと同じような事にならないかなと、先々見たら3つが一緒になってもこの間人小に児童数が来れるというような状態が恐らくこないかなと、ゆくゆく将来的にはそうならないかなというような危惧をしております。

〈委員長〉

はい、ありがとうございました。

〈委員〉

もう1点いいですか。

〈委員長〉

はいどうぞ。

〈委員〉

この前テレビを見てましたら、滋賀の高島の方で山村留学をいまだにしている所があって、宇川の人はずごく元気でやはり教育はああいう田舎であるのがいいなと親御さん方は言います。一番環境がいいなとよく言います。だから数字的にも逆にそんなに減らない、豊栄が峰山の方向にいてるのできっとそういう形になっているのかなとよく見え隠れするので、今大木副委員長も言われたように、宇川を含めて丹後町の自然環境でOKだよ、教育の部分の山村利用の制度も含めて、やはり何かの部分で教育の議論をされて今の社会の歪んだ所をもう少し、京丹后市ってこんなにいい町なんだよという議論が流れてですね、教育するならこういう場でという、一番人間としての理念の部分で語れるようなまちづくりの教育現場のあり方というのは、ふとテレビで見てたりしてああいう所に行きたいという昭和の人でも行っているんですね、親子連れでね。やっぱりその辺の何かあるんだろうなと思っていて、少ないから減らすとかそういう議論ばかりではなく、何かで活かしていくという形も大切ではないかなというのは常々思っています。

**〈委員長〉**

はい、ありがとうございました。はいどうぞ。

**〈委員〉**

私が生まれましてのは宇川という所で、今宇川、宇川と話題になっていますが、宇川から峰山の方へ皆が行っているわけではなくて、逆に航空自衛隊がありましてそこに勤めている人が峰山、大宮から来ている人も結構いるんです。官舎が一杯なのでよそから宇川に行っているというケースもあります。先程から宇川が問題になっていますが、私は宇川中学校というものも先月話題になっておりましたけども、中学校もあるし小学校もあるわけで、やはり両方合わせて考えていってもいいのではないかなと思います。何もかもなくなるといふ事も困るでしょうし、中学生と小学生とでは体力も気持ちの持ちようも全く違うでしょうから同列に考えずに、特に間人に行くまでには大きな峠があるし距離もかなりありますから、そうなるとうやはり中学生にできたことが小学生にできるとは限らないわけですね、だからその辺はよく考えてもらって、小学校の場合はやはりああゆう不便な場所ですから、尚且つ学校が存続するというのは地域にとっては非常に必要なことではないかなと私も思っております。そういう観点から考えるのもいい方法ではないかなと思います。以上です。

**〈委員長〉**

はいどうぞ。

**〈委員〉**

すみません。さっき野木委員がおっしゃった件なんですけども、峰山でも出ておりました。是非企業誘致していただくとか、都市計画を考えていただくとかですね、今野木委員がおっしゃったように経済的な方へ価値、ものの考え方が教育に関しても行っていると思うんですね。マインがあるから便利だとか駅が近いですとか、病院はどこでも宇川にもありますが、そういう事も含めて行政の方でも、農振をはずしていただくとか。テレビを見ていると、山村学校だとかそういうのを見ているといいなって思うんですね。水の中の生き物の話とか私も一生懸命になってしたい方ですので、そういうのを売っていくというか、いろんな地域から寄って来て永住したいなと思えるようなそういう政策を打ち出していただくとか、ちょっと夢物語みたいですけど、結構いけるんじゃないかなと思ったりしております、例えば京丹後市の中でも海辺の方の人口が減った方に田んぼがいっぱいありますよね、そういう所の農振を外していただいて、生活するなら人気が出るような、行政的

にもバックアップできるような、地域と一緒に考えていただいて、それもリタイヤした方もいいんですけど、やっぱり若い方に、赤ちゃんが産める人に来ていただくというような条件を付けたり色々と思いました。やっぱり峰山の方に来られるというのは便利だったりするという事が大きいと思うんです。子どもにしたら、それから教育を考えると少なくとも伸び伸びという事も十分あるんですけど、やっぱり競争させるという人格形成の部分が沢山ありますので、そこもなかなか重要なことだと思いますし、施策の方で考えていただくと価値があがり、自然の中で子どもを悠々伸び伸びと育てるという謳い文句にでもしていただくと、京丹後市って結構いいじゃないのかなって私は思っているんですけど。以上です。

**〈委員長〉**

はい、ありがとうございました。

**〈委員〉**

失礼します。それこそおっしゃったように京丹後市のいい所はやっぱり自然があるという所が大事ですし、京丹後市の言葉の中に人、水、緑、歴史と文化が織りなす交流のまち京丹後市というのがあると思うんですが、やはりそれを育む教育、子どもたちがその恩恵を受ける教育というのを施策として是非していただきたいと思う中で、数をどうするという議論をいつまでもしていないで、やはりこれから子どもたちにどういう教育をしていくんだという議論に早くしていってもらえるといいなというふうに思っています。子どもにいろんな体験をさせるという事も今、子どもたちにとって一番大事な事、それが京丹後市にはあるのではないかなと思える中で、数の議論よりも教育のどうあるべきかという議論にさせていただくといいのではないかなと思っています。山村留学であったりとか、そういうものも施策の中の一つとしても大事な事ではないかなと感じています。

**〈委員長〉**

はい、ありがとうございました。時間も参りましたのですが、まだご意見を言われる方おられましたら、はいどうぞ。

**〈教育長〉**

教育委員会の方で、もう少し方針を出してたたき台を作ればもう少し論議が進みやすいのではないかという意見とか、それからこう色々出しているけれども、いざゴーとなった時に本当に実現するのかわずと先になるのか色々不安もあるという声もございました。もっともだと思います。この頃時折新聞で統廃合の問題が話題になっている記事をよく目

にします。その中の多くがだいたいプロジェクトチームというか検討委員会みたいなチームを作って、そこで学校規模だとか財政面とかに目をつけてこの地区では小学校は何校、中学校は何校というのをたたき台にして出しておられるのが多いのではないかと思います。前教育長も説明しておりましたように、京丹後市における学校再配置というのはどんな再配置をすることが子どもに一番いいかと、ただ学校数はいくらかは減らしていかなければならないと、現状というのはあり得ないけれどもどういう配置が一番いいのかという事を原点に進めていただくかと思えます。そういう意味ではひょっとしたら遠回りになるかも知れませんが、分科会では子どもを持っておられる親の方、また子どもに何らかの形でかわりのある方に委員さんになっていただく、それからこの検討委員会ではまちづくりの観点で、まちづくりの委員さんにもなっていただいてその視点からも話を聞いていくというような事で進めて参っております。色々な所で口も出さずに黙っておりましたのはそういう意味もあったとご了解願いたいと思えますが、答申をあげていただいてから本当に教育委員会としてどんな形が考えられるか財政面との相談をしながら、また基本の計画を立てていくという段取りになります。そうした方向でこれが進んでいるという事を再確認していただきまして、よろしくお願ひしたいと思っております。以上です。

#### 〈委員長〉

はい、ありがとうございます。それでは本日色々なご意見をいただいたわけですが、皆様方もご存知かと思えますが、全国的にもアンケート調査していますが少人数でも今のまがいいなというのと、一緒に再配置した方がいいというのといずれにしてもほとんど差がないですね。だからどちらにもやはりいい点があるんだろうと思えます。今日この委員会では教育長さんがおっしゃられるように多様な意見をいただいてという事でございますから、地域としての学校の再配置の中で小規模校があってもいいし、それからある程度沢山の児童数で競争をさせて人格形成等が図られるという事もいいと、この2つが今回ここでお聞きをする範囲では一番大事にしていかなければならないのかなと思えました。その点をまた次回までに皆さん考えていただきまして、ご意見をいただければというふうに思います。本日はあと弥栄と久美浜が残りましたので、次回は弥栄と久美浜の議論をした後で、小学校につきまして若干まとめに向けてのご意見をいただく時間をとっていきたく思っておりますので、皆さんひとつご協力なりご思案をよろしくお願ひします。では本日はこの程度にさせていただきますので皆さんよろしいでしょうか。

#### 〈教育次長〉

はい、ありがとうございました。それではこのあと次回の開催日程をご調整いただけたいと思います。よろしくお願い致します。

〈委員長〉

はい、次回は9月の25日か30日あたりでいかがでしょうか。特に25、30日でご都合の悪い方がおられましたらおっしゃっていただければ。

〈副委員長〉

できれば25日は外していただきたいんですが。

〈委員長〉

はい、皆さんいかがですか。

〈副委員長〉

できれば30日がいいのですが。

〈委員〉

26日網野町はまちづくり協議会を予定しております。

〈委員長〉

では30日の火曜日という事で決めさせていただきますのでよろしくお願い致します。

〈教育次長〉

ありがとうございました。これで第7回京丹後市学校再配置検討委員会を終了させていただきます。閉会に際しまして、大木副委員長様よろしくお願い致します。

〈副委員長〉

夜分お疲れの所大変ご苦労様でした。今日は新しい言葉と言うか、今出てきました、第二の地域づくりだとか、私はこの問題についてはやっぱり人づくり、今京丹後市が何をすべきかという事は、一番大事なことは、20年かかるかもわかりませんがいい人づくりをしておけば京丹後市は悠々とあるのではなかろうかと思えます。そのためには教育だけではなく、地域の教育、いろんな教育はあろうかと思えます。そういう面で子どもたちだけの、本当に子どもたちに勉強だけを詰め込むという教育もあれば、やはりいろんなことを教えてやる教育もあるかと思うので、学校の問題については地域の皆さん方がそういうふう考えた議論をして欲しいというふうに思います。子どもたちは宝物です。その宝物が20年、30年経ったらここに居てくれるのか、居てくれないのか、今日のこの話の結構大きな問題だと思います。やはりここに居てくれるような、住み続けてくれるような子どもたちをどう育成していくか育てていくかという事は、私は大事だと思うんですね。そう

いう観点から、今日久しぶりに地域だとか農山村とかいろんな問題が出ました。私にしてみたら良かったなというふうに思いますので、そういうグローバルな考え方のもとに学校再配置の問題も考えていただきたい。それと先程言いましたように、早く京丹後市の都市計画の方ですね、いろんな形をどう作っていくか、こういう部分ではどういうまちづくりにするか、できているんですけどそれをどう実行していくのかという事を各方面に訴えるのも1つの問題ではなかろうかと思っております。ある町だけが中心的になるのではなく、特色あるまちづくりをどうしていくかという事も、学校の位置の問題にも大きく関わってくると思いますので、皆様方におかれましてもお仕事等で大変かと思いますが、そういうグローバル的な考え方でいろんな視点からご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。今日は本当にご苦勞様でした。ありがとうございました。

#### 〈教育次長〉

それでは、以上をもちまして本日の検討委員会を散会させていただきます。どうぞお気をつけてお帰り下さい。ありがとうございました。

〈閉会 午後9時13分〉

※次回開催日 平成20年9月30日(火) 午後7時30分～(予定)

京丹後市役所 峰山庁舎 2階 201. 202. 203会議室